

1-3. 生産財として

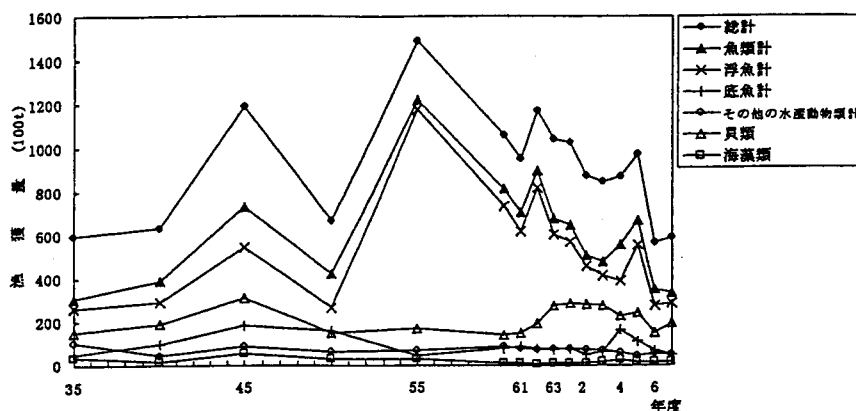
伊勢湾と私たちの営みについて考えてみましょう。

1-3-1. ^{すなど} 漁りの伊勢湾

「海の幸」を求めて、古くから漁業が営まれ、様々な漁法が工夫されてきました。漁業は私たちに貴重な食糧源のひとつを供給しています。しかも、漁業資源は、適正に管理することで持続可能な国産資源ともなります。

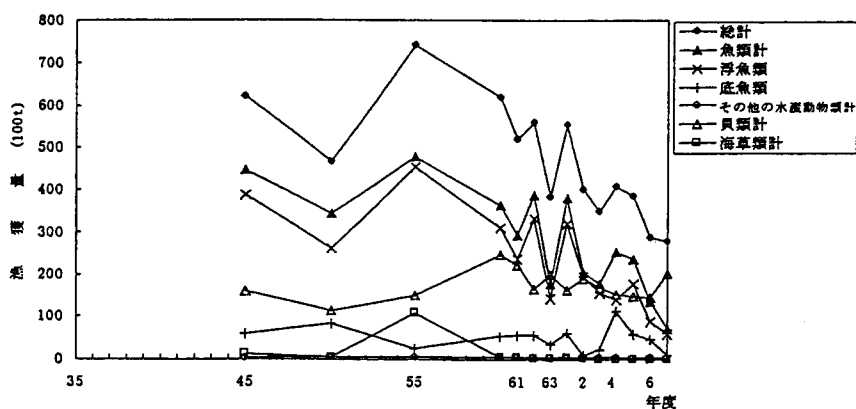
また、伊勢湾の富栄養化の原因である有機物や栄養塩（窒素、リンなど）が湾内の食物連鎖を通じて「海の幸」となり、私たちの食糧として消費（湾外に還元）されることにより、富栄養化が抑制されるといった一定の役割も漁業は果たしていると言えます。

しかし、漁業後継者の不足や漁業従事者の高齢化などにより、現在の漁業をとりまく経営環境は非常に厳しくなっています。また、現状のように漁業資源が減少している中で、多様な生態系を維持していくためには、資源を管理しながら獲るいわゆる「資源管理型漁業」をめざしていくことが重要となっています。



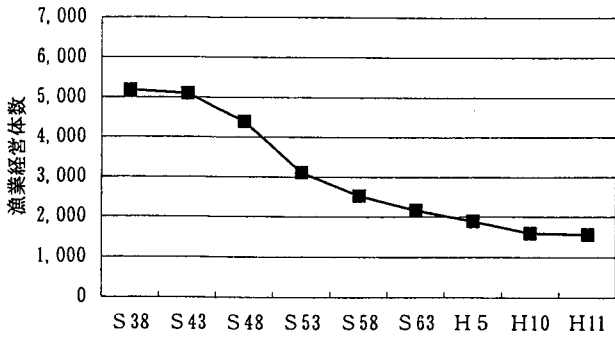
年間漁獲高は、平成7年度で愛知県6万トン、三重県3万トン、愛知県では昭和55年度をピークに減少、三重県でも同様の傾向にある。

資料：愛知県農林統計協会『愛知農林水産統計年表』より作成(1962～1997)
図. 愛知県の魚種別漁獲量の変化(全県ベース)

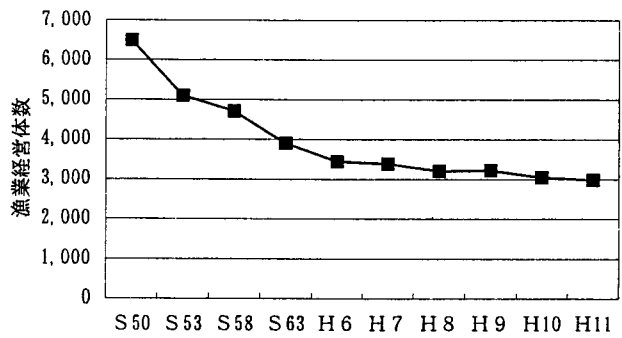


注) 伊勢湾海区の数値
資料：三重県農林統計協会『三重農林水産統計年表』より作成(1962～1997)
図. 三重県の魚種別漁獲量の変化(伊勢湾海区)

漁業経営体数(平成11年度)は、愛知県が2,983、三重県(伊勢湾海区)が1,565で、近年、漸減している。

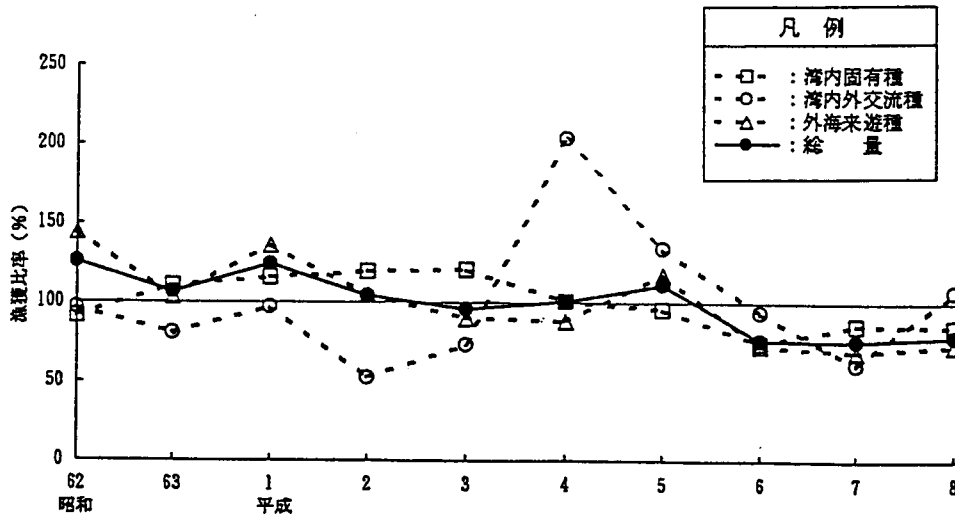


注) 三重県は伊勢湾海区
資料: 東海農政局「三重農林水産統計年報」より
図. 伊勢湾の経年別漁業経営体数の変化 (三重県)



注) 愛知県は全県ベース
資料: 東海農政局「愛知農林水産統計年報」より
図. 伊勢湾の経年別漁業経営体数の変化 (愛知県)

漁業生物の生活史別にみると、湾内固有種は漸減傾向にある。



出典: 中部国際空港圏地「中部国際空港建設事業及び空港島地域開発用地埋立造成事業に関する環境影響評価書」1999.6
図. 伊勢湾における漁業生物の生活史別漁獲量の経年変化

ステップアップコーナー

漁業権

漁業法に基づき、特定の水面において排他的に漁業を営む権利で、区域と漁業権魚種と時期を定め、知事の免許により設定されている。大きく分けて共同漁業権、区画漁業権、定置漁業権の3つの漁業権がある。

「共同漁業権」は一定の水面を共同に利用して営む権利で、魚種・規模・漁法等によって1種から5種まで規定されている。「区画漁業権」は養殖業を営む権利で、経営形態によって1種から3種に分類されている。「定置漁業権」は、一般に身網の高さが27m以上の定置網と、北海道でサケを主体とする定置網が対象となる。(参考：大阪湾新社会基盤研究会編『海域環境創造事典改訂版』1997.3)

入浜権

全ての人が海岸に自由に入り、海水浴や釣りなどを楽しむ権利で、環境権の一部として主張されている。これは、アメリカの沿岸域管理の文脈で、公的に所有された海辺に、市民が物理的に到達できる法的権利として「パブリックアクセス」の概念がこれに近いものといえる。

タンパク質の供給源

いまでも日本人は摂取動物タンパク質の40%を魚介類からとっており、深く食生活に根を下ろしている。最近では、制ガン作用や肥満防止、高血圧の予防など健康上の理由から魚介類を好んで食べる先進国の人々が増加の傾向にあると言われている。日本でも高齢層の魚介・藻類への志向は相当に高い。(出典：伊勢湾研究会編『伊勢・三河湾再生のシナリオ — 海と人間の共生を求めて —』1995.6)

食文化の源

海産魚介類は、養殖魚類を除き、食糧としての安全性において信頼できる。いまや世界の海から1億トンを超える漁業生産があり、先進国はもとより発展途上国も必死に魚介類を求めている。それは陸上での動物性タンパク質供給に限界のあること、土地と餌料という大きな生産コストのかかることを、世界各国が知っているからである。海産魚介類に恵まれた日本は、原点に戻って、その重要性和可能性を見直すべきである。自国の海からの漁業生産物を人間の積極的な生命維持食糧源として認識すべきである。(出典：伊勢湾研究会編『伊勢・三河湾再生のシナリオ — 海と人間の共生を求めて —』1995.6)

豆知識コーナー

「漁」という漢字

魚(うお・すなどる)にさんずい(水)を加えて、「すなどる」意に用いる。「リョウ」は、国語で猟(リョウ)と混同した通俗音と解字される。その意味は、魚や貝などをとることを示す。また、「漁民の森」に関連して「漁樵」(ギョシヨウ)という熟語があり、①魚をとることと、木を切ること。②漁夫ときこり。転じて、名利(ミョウリ)を離れて民間に暮らすことを示す。(参考：旺文社漢和辞典改訂新版,1989)。なお、「すなどり」の語源は「ス(渚)ナ(魚)トリ(捕る)」とされている。(参考：日本語大辞典/松岡静雄編)

阿漕平治(あこぎへいじ)の伝説

阿漕浦(あこぎうら)は、伊勢神宮に献上する魚を捕るための専用の場所であり、禁漁区であった。親孝行であった漁夫平治は「矢柄(やがら)」という魚が母の病気によく効く薬になると聞き、夜になると矢柄を捕りに阿漕浦に出かけた。捕った矢柄を母に食べさせ、病気が治るのを楽しみにしていたが、ある風の強い日に平治は自分の名前が書いてある笠を浜に置き忘れたために捕らえられてしまい、法により、簀巻(すまき)にされて阿漕浦の沖深く沈められてしまったという伝説があるが、これは謡曲、浄瑠璃、芝居でも有名である。

蛤塚

その手は桑名の焼ハマグリ

桑名の殿様しぐれでお茶漬け

ハマグリといえば桑名、桑名といえばハマグリである。ハマグリは汚れの無い白砂の海底と栄養分があつてはじめて育つ。ハマグリ“涌く”桑名の海がいかにもすばらしい海であったことか。専正寺の門を入ったところに、ハマグリ供養の蛤塚がある。当時、ここがまだ漁村で厚く地面がハマグリ“殻”で覆われていた文政6年(1823年)に、谷某が供養の意を込めて建てたと伝える。(海の博物館 石原義剛著「伊勢湾 海の祭りと港の歴史を歩く」より)

1-3-2. 交易の伊勢湾

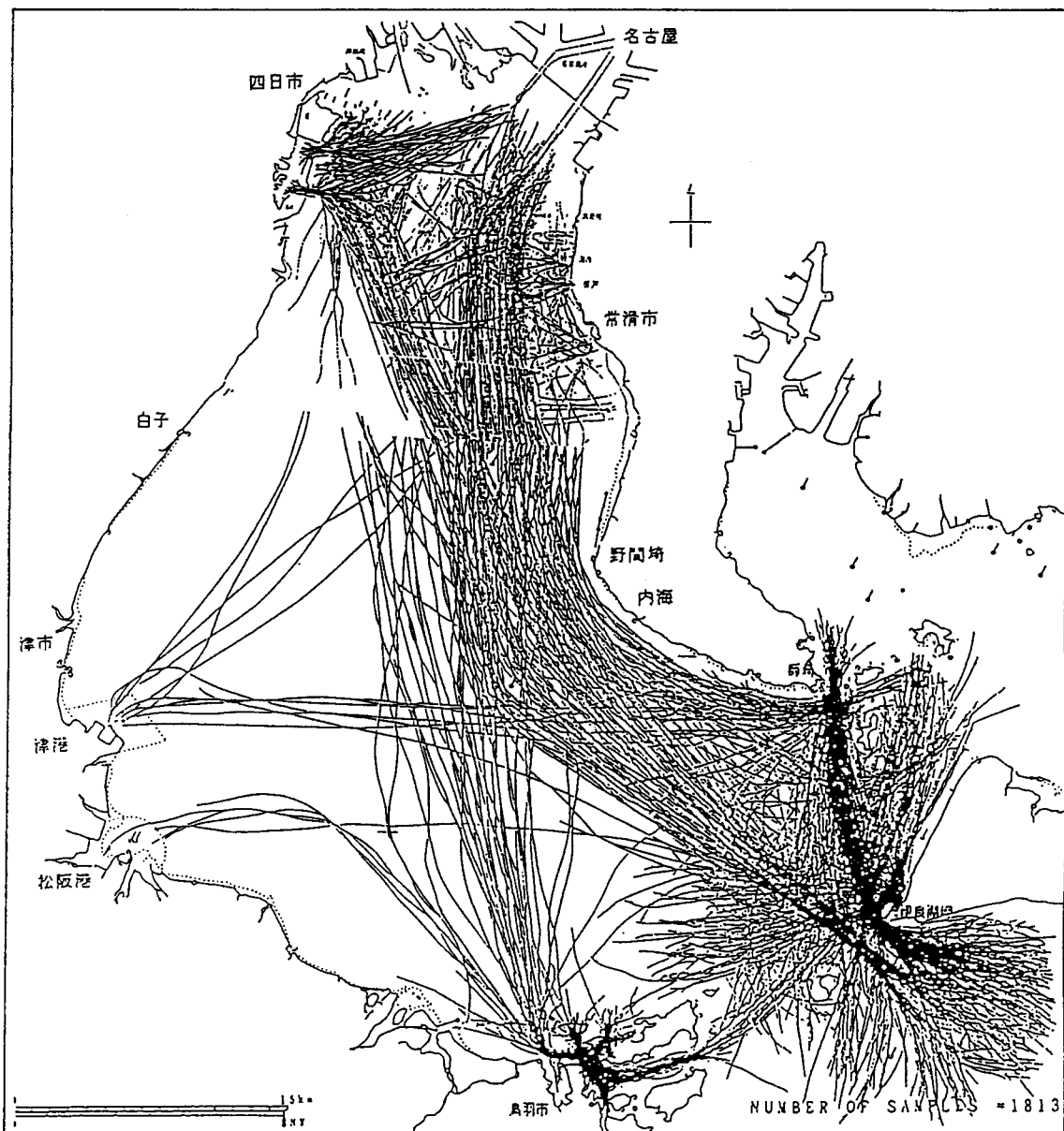
東西日本の接点に位置し、波の穏やかな伊勢湾では、古くから海上交通の要衝として港が発展してきました。その港を中心に人と物資が集まり、町が作られ、賑わいを見せてきました。

今日においても、伊勢湾は日本の産業技術の発展に大きく寄与している伊勢湾流域の物流・交流基盤として大きな役割を担っています。更に今後、経済のグローバル化の進展などを踏まえ、より高度な港湾機能の整備が求められています。

また、環伊勢湾地域が我が国の代表的な産業技術の中核圏域として発展していくためには、広域的・国際的な高速交通ネットワークの強化を図ることが求められています。

しかし、港湾整備等の過程で多くの埋立が行われてきたのも事実です。

伊勢湾（狭義）を航行する船舶は、大部分が湾東部を航行しており、特に知多半島の師崎と渥美半島の伊良湖岬間を航行する船舶数が極めて多い。

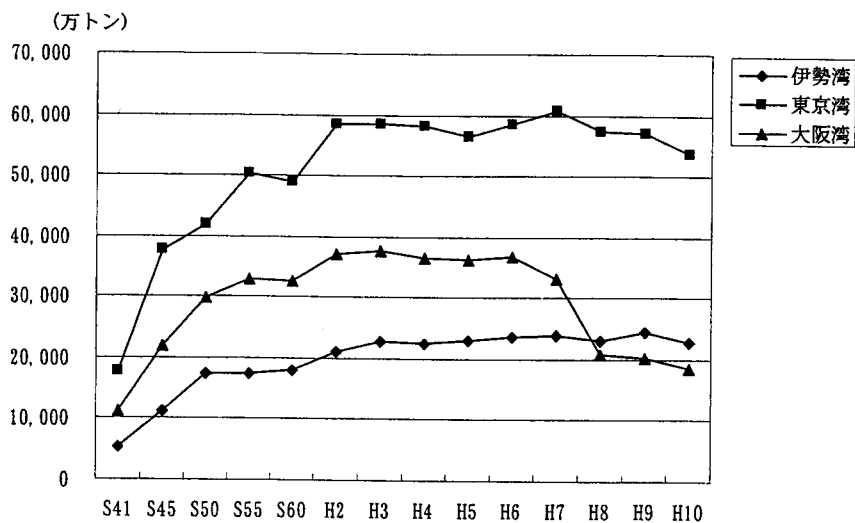


*1: 全船舶、0600時から1800時の12時間、平成2年8月、平成3年9月の合成

出典：運輸省第五港湾建設局『伊勢湾水域利用計画調査』1991

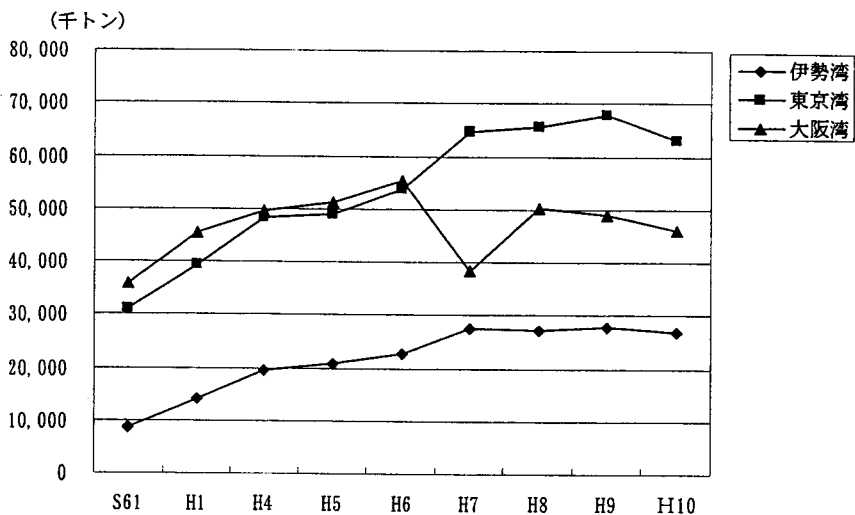
図. 伊勢湾全域における船舶航跡図

東京湾、大阪湾の港湾取扱貨物量と比較すると、伊勢湾では比較的着実な増加を示している。また、特にコンテナ貨物の取扱量の増加が著しい。



注1：伊勢湾は、名古屋港、衣浦港、三河港、四日市港、津松阪港の5港
 注2：東京湾は、千葉港、木更津港、東京港、川崎港、横浜港、横須賀港の6港
 注3：大阪湾は、大阪港、堺泉北港、阪南港、神戸港、尼崎西宮芦屋港の5港
 注4：輸出入貨物は、外航フェリーによる貨物を含む
 注5：内貿は、内航フェリーによる貨物を除く
 資料：運輸省運輸政策局管理部『港湾統計(年報)』

図. 三大湾における港湾取扱量の推移



注1：伊勢湾は、名古屋港、四日市港の2港
 注2：東京湾は、千葉港、東京港、横浜港の3港
 注3：大阪湾は、大阪港、堺泉北港、神戸港の3港
 資料：運輸省運輸政策局管理部『港湾統計(年報)』

図. 三大湾における外貿易コンテナ貨物量の推移

ステップアップコーナー

港湾・漁港

我国には港湾のことを定めている港湾法という法律がある。そして、この法律に基づいて設立された港湾が全国に1,093港ある。この他に、漁港法に基づく漁港は、この適用を受ける漁港が全国で2,945港ある。

■港湾数一覧(1999.12.1現在)

区分	総数	港湾管理者				計	56条港湾
		都道府県	市町村	港務局	一部事務組合		
重要港湾	134	101	27	1	5	134	-
(うち特定重要港湾)	(21)	(10)	(8)	(-)	(3)	(21)	(-)
地方港湾	959	523	368	-	-	891	68
計	1,093	624	395	1	5	1,025	68
(うち避難港)	(35)	(29)	(6)	(-)	(-)	(-)	(-)

○特定重要港湾：重要港湾のうち外国貿易の増進のため特に重要な港湾

○重要港湾：国の利害に重大な関係を有する港湾

○地方港湾：重要港湾以外の港湾

○避難港：暴風雨に際し小型船舶が避難するのに指定された港湾

○56条港湾：港湾区域を持たない港湾

資料：運輸省港湾局管理課調べ

注1) 東京都の洞輪沢港は避難港指定を受けているが、管理者未成立であり、かつ56条港湾ではないので本表より削除

注2) 地方港湾の総数欄959港には56条港湾を加えている

■漁港の分類

区分	総数
第1種漁港	主に地元の漁船が利用するもの
第2種漁港	第1種漁港よりも利用範囲が広く、近隣漁港の漁船も利用するもの
第3種漁港	全国の漁船によって利用されるもの
特定第3種漁港	第3種漁港のうち水産業の振興上特に重要な漁港で、法令によって定められたもの
第4種漁港	離島その他辺地にあつて、漁場の開発、漁船の避難上特に重要なもの

資料：漁港法

パナマックス船とオーバーパナマックス船

パナマックス船とは、パナマ運河を航行することができる最も大型の船舶(最大船幅は32.31m)のこと。5～8万t級の船舶がこれに相当する。Panamaとmaximumの合成語。タンカーに限らず、撤積船、鉱石船、コンテナ船などにも用いられる。なお、この条件を超える大型コンテナ船をオーバーパナマックス船という。今後、伊勢湾の特定重要港湾等が多目的外貿埠頭を備えた国際流通港湾として発展していくためには、これらの大型船に対応する-14m岸壁をもつターミナルの整備が望まれている。

乙仲費用

港湾において、本船から荷下ろしし、通関手続きを行い、トラックに積み込むまでの費用のこと。第二次世界大戦中の戦時統制下で制定された海運組合法において、「定期船の貨物の仲立を業とする者」を乙種仲立業と定義していたため、一般に港湾運送者のことを乙仲と呼んだことに由来する。また、海貨業者と呼ぶこともある。

豆知識コーナー

大黒屋光太夫と伊勢湾

日本とロシアとの国際文化交流の先駆者であり、井上靖の小説『おろしや国酔夢譚』の主人公である大黒屋光太夫は、亀山藩領南若松村(現三重県鈴鹿市南若松町)に生まれた。天明2年光太夫は船頭として、伊勢白子の港から江戸に向けて船出した。そして、17人の乗組員誰一人として予想もしなかった10年のロシア漂流を余儀なくされ、その際、ロシアの文化に触れることとなった。光太夫が漂泊の旅の中で覚え知ったロシア語、知り得たロシア、ヨーロッパの情報等は開国への足音が忍び寄る日本にきわめて大きな影響をもたらしたと考えられる。

稲葉三右衛門と四日市港

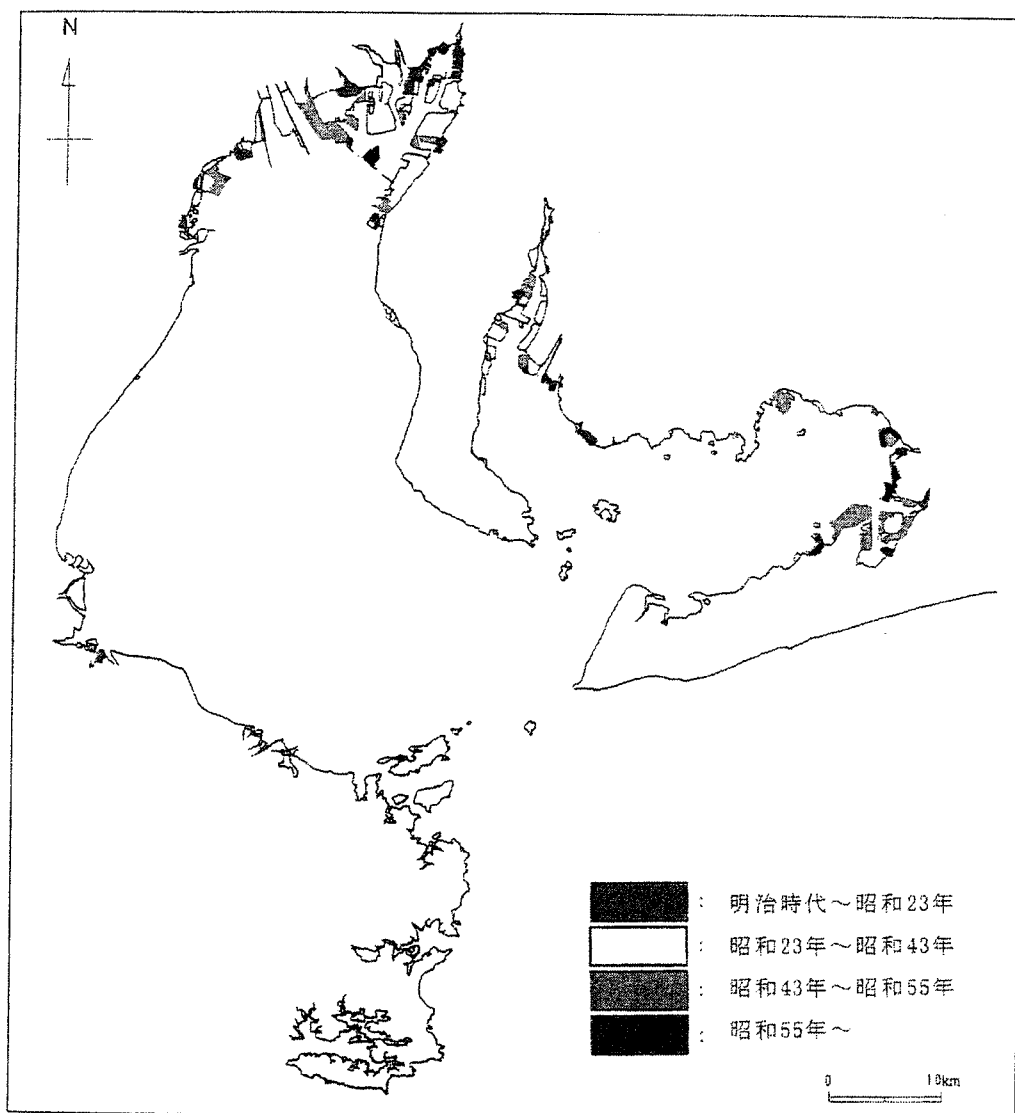
昨年に開港100周年を迎えた四日市港の歴史は稲葉三右衛門という人を抜きにして語るができない。もともと肥料商、和船の間屋を営んでいたが、私財を投げ打って波止場等の建設に打ち込み、明治17年に現在は旧港と呼ばれる港を完成させた。その後、四日市港は明治22年に特別輸出港、同30年には特別輸出入港、さらに同32年に開港場の指定を受け、近代港湾として発展していくことになる。その功績を称え、JR四日市駅前に銅像が立っている。また、稲葉町という地名も残されている。(参考：大林、西川著「三重県の百年」1993.1)

1-3-3. 埋立の伊勢湾

明治時代以降、欧米先進国にキャッチアップする（追いつく）ために工業を導入し、経済の効率性を追求してきた過程で、陸域に比べ低コストで利害関係が比較的複雑でなかった海域、特に浅い沿岸海域を埋立て、土地を造成し、港湾整備や様々な産業を誘致し、経済を発展しようとしてきました。伊勢湾でも、広大な面積の埋立が行われ、臨海工業地帯が形成され、地域経済の発展が図られてきました。

その一方で、埋立によって、砂浜や干潟という私たちが癒してくれた「原風景」が失われただけでなく、それらが有していた「自然の浄化能力」も同時に失われてしまい、伊勢湾の水質や生態系に大きなダメージを与えてきました。

伊勢湾にはまだまだ多くの「自然」が残されています。環境問題に対する人々の意識が高まるにつれて、砂浜や干潟等の重要性が再認識されつつあり、それらを保全し、再生しようとする活動が活発になってきています。



資料：第五港湾建設局資料より
図. 伊勢湾における埋立の変遷

ステップアップコーナー

沿岸利用優先の原則

主に米国で、沿岸域全体の利用方針を決め、その方針に応じて沿岸域利用を配分するために、海岸域に着目し、①海岸域を何に利用すべきか、②その利用を海岸域の整備・保全・緩衝の各域にどのように配分すべきか、③残りを奥行き方向にどのように展開(management)すべきかについて議論されたものである。

その際、この配分すべき機能を、①海岸にあることが不可欠な利用(開発)、②海岸域にあった方が望ましい利用(開発)、③海岸にあってもなくてもどちらでも良い利用(開発)、④海岸にあってはならない利用(開発)と優先順位をつけている。(参考：都市環境研究会「都市とウォーターフロント」、染谷昭夫著「沿岸域計画の視点」)

これは可住地面積が広い欧米先進国とは異なり、少ない可住地面積を稠密に利用してきた日本においては、この原則をそのまま当てはめることが可能であるかについては議論が必要である。

公有水面埋立法(大正10年制定、平成2年改正)

公有水面の適正かつ合理的な利用を図るため、自然環境の保全、公害の防止、埋立地の権利移転又は利用の適正化等の見地から、その埋立に関する規制を定めている。なお、この法律で「公有水面」とは、河、海、湖、沼、その他の公共の用に供する水流又は水面で国の所有に属するものをいう。

同法において、埋立をしようとしている者は、知事の免許(埋立免許)を受けなければならない(法第2条)とし、その際の免許基準としては、①国土利用上適正且つ合理的なること、②環境保全上及び災害防止に十分配慮すること、③埋立地の用途が土地利用又は環境保全に関する国又は地方公共団体の法律に基づく計画に違背しないこと、④埋立地の用途に照らして公共施設の配置及び規模が適正なこと、⑤埋立地を他人に譲渡し又は他人に使用させることを主たる目的とした埋立は、出願人が地方公共団体が政令で定める者であり、かつ埋立地の処分方法及び予定対価の額が適正なこと、⑥出願人が埋立てを遂行するに足りる資力及び信用を有することが、条件として定められている。

豆知識コーナー

水に関わる諺

『水が合わない』

その土地の人達の気質や自分の属している組織などの体質が自分とは合わず、うまくいかない様子。

『水清ければ魚棲まず』

あまりに清廉潔白すぎると、人に親しまれないたとえ。水があまり清らかに澄みすぎると魚が住みつかない。人も潔白厳格にすぎて人を許さないと、人が寄りつかないで孤立する意。

『水心あれば魚心あり』

そちらに魚になる心があれば、こちらあなたも住みよいような水になる心を持ってもよい。何事も先方の出方次第で、相手が好意を示してくれれば、こちら好意を示そう、という意。

『水に流す』

今までのいざこざなどをすべて無かったことにして、こだわらないことにする。

『水の泡になる』

それまでの努力や苦労などがいっさい無駄になる。

『水は方円(わが)の器(うつ)に随(したが)う』

人は、交友や環境によって善くも悪くもなるたとえ。水には固有の形はなく、四角な器に入れれば四角に、円い器に入れれば円くなる。

『水も漏らさぬ』

(一)警戒が厳重で、少しのすきもない様子。(二)非常に親密な間柄で、他人が割って入る余地がない様子。

『水を差す』

(一)仲のいい二人をわざと仲たがいさせるように仕向ける。(二)途中でじゃまをして、何かをし続ける気をなくさせる。

『水を向ける』

それとなくほのめかして、相手に関心を持たせようとする。